

スポーツ MICE 研究部会（第 4 回）

日 時：7 月 30 日（木）10：00～12：00

会 場：JSC B 棟プロジェクトルーム

出席者

- [研究員] 福井昌平（部会長）、荒木裕司、小松史郎、澤内隆、
澤崎宏、野川春夫、萩裕美子、濱口博行、増田豊仁、
守屋慎一郎、師岡文男
- [オブザーバー] 泉修二（(株)フジヤ東京本社 執行役員副本部長）
- [事務局] 小林政則、加藤淑子、内田なお子



資料：・スポーツ MICE 研究会提案メモ（守屋）

おもな議題

- ・スポーツ MICE 事業化モデル、5 レイヤーについて（福井部会長）
- ・研究員の自由発表

おもな内容

■萩座長挨拶

- ・先日、新国立競技場の建設計画がゼロベースになったが、当初に定めた提案のスケジュールを再検討し、研究成果の提案を前倒しに行って研究会の活動を世の中にアピールすることも検討したい。

■スポーツ MICE 事業化モデル、5 レイヤーについて（福井部会長）

- ・建設計画が白紙の状態になり、原点に帰ることが大事。2014 年 11 月に採択された「オリンピック・アジェンダ 2020」を改めて紹介。<http://www.joc.or.jp/olympism/agenda2020/>
- ・ポイントとなるのは、できるだけ簡素に、既存の施設を活用し、仮設でも構わないという項目。一方で、アスリートのパフォーマンスが最高に発揮されることも提言されている。その評価には、持続可能性とレガシーに注目するように明記されている。他のスポーツイベントの主権者との緊密な協力も記載され、国際ワールドゲームズ協会、国際マスターズゲームズ協会が上げられている。（20+20 の 40 の提言を紹介）
- ・新国立競技場をはじめオリンピックに関する議論において、ここに記載されている内容が欠けている傾向もある。研究会の皆さんには改めて目を通していただきたい。

■研究員の自由発表（守屋慎一郎）

- ・配布資料にて、為末大氏のメッセージとスポーツ MICE が果たすべき役割を紹介。スタジアム利用者層を拡大し、全ての人に開かれたスタジアムとなるための 5 つの試案を提案。
 - 1) ワールドスポーツコンGRESS
 - 2) パラトリエンナーレ
 - 3) TOKYO SPORTS WEEK
 - 4) スポーツラボ
 - 5) パークライフイニシアチブ

[意見交換]

- ・個人的には、見本市系のアイデアも入れて欲しい。先日見学したスポルテック 2015 は、来年はさらに拡大した形で開催が計画されている。クライミング等の体験型の展示は、神宮外苑のようなス

ペースでテントを活用した展示がマッチすると感じた。もう一つ、公園管理のノウハウも参考になる。都市公園のキーワードである「パークライフスタイル」も研究テーマに添えたい。(福井)

- ・スポルテックは基本的に BtoB の展示会だが、神宮外苑のような会場で開催することで一般の来場者にアピールすることも可能になる。(守屋)
- ・新国立競技場の報道に関して、新聞等では工費と工期ばかりが語られ、改修や改築にかかるライフサイクルコストの議論がない。持続可能性を担保するためには、見過ごすことはできない。(小松)
- ・ライフサイクルコストをスタジアムがどう生み出すかが、これまで考えられていなかった。改修や改築にかかる費用を稼ぎ出すことが、持続可能性のためには必須になる。(澤崎)
- ・そういった事実も公表しなければ、後からクレームが出る。2020 年のマイナスイメージになることは避けたい。ライフサイクルコストにも透明性が必要だと感じる。(濱口)
- ・ボストンが 2024 年の招致を辞退して、世界的な衝撃になっている。市民が夢を見られるような、五輪によってできたモノの活用を提案したい。(師岡)
- ・残念なことに 2020 年に向けた明確な理念がない。一般の人がスポーツに親しむ機会を増やすことなど色々考えられる。新国立競技場は五輪だけの聖地ではない。子供や高齢者がスポーツに触れる場所にして、全国各地や世界中から人が訪れるような、聖地としての証を残すことが必要。(濱口)
- ・建設計画が白紙になったことで、逆にスポーツ MICE をするために必要な設備や要件を提言することが可能になった。自由な発想で考え、経済効率に優れ、市民の使い勝手が良く、災害時に有効に活用できるようなアイデア、MICE として活用する上で必要なバックヤード等を提案できるチャンスに恵まれた。コンセプトを、パーク化、タウン化、あるいはフロリダのディズニーワールドのように、スポーツワールド化することも考えられる。特区構想も視野に入ってきている。それを各地に広げるモデル的な事業にすることもできる。できれば早期に面白いプランを提案していきたい。(野川)
- ・アイデアに対する説得力を高めることも考えたい。スポーツをすることで、医療費や年金が削減可能になることを数値化して示さなければ、面白いアイデアを出してもマスコミに潰される。(澤内)
- ・オブザーバーとして研究会の内容を深く知らずに参加したが、実にリアルタイムな課題に対して夢のある議論をし、夢が現実に結び付くようなディスカッションを聞いて感銘を受けた。(泉)

■まとめ

- ・本研究部会では、10 月 20 日の研究大会での中間発表を目途にしている。次回研究部会の 9 月 3 日までに、これまでの議論や研究をまとめて準備を進めたい。(福井)
- ・澤内さんの指摘のとおり、提案の内容を説得するだけのエビデンスが必要だと改めて感じた。パークライフスタイルのデータが既に出ているのであれば、入手して翻訳することも考えたい。(萩)
- ・「ヘルシーパーク・ヘルシーピープル」の創始者の基調講演のデータを所有しているので、メンバーの皆さんに見ていただけるように検討する。(福井)
- ・スタジアムだけでなく、周囲を含んだ広い視野の提言の第一弾を早く出すことが望ましい。東京が世界に冠たる都市であるために研究している内容を、箇条書きの形でも緊急に提言を出すべきだと考える。現状では建設費の話ばかりが議論されるが、矮小で使いにくい施設は逆に負の遺産になってしまうことをアピールしたい。(野川)